

## 情勢報告（平成28年9月分）

中央東農業振興センター嶺北農業改良普及所

### 栽培技術の向上を目指して－若手農業者を対象とした勉強会を開催－



勉強会の様子

普及所は管内の法人組織の研修生や認定新規就農者等7人を対象に、8月22日に土佐町で米ナス、トマト、トウガラシ類の栽培ハウスで勉強会を行いました。

勉強会では、普及所は現在の生育状況の見方や今後の栽培管理のポイントについて説明しました。参加者からは生理障害対策や病害虫防除等について質問があり、会終了後のアンケートでは「参考になった」という意見が多い結果になりました。

今後も普及所は、若手農業者が栽培技術を勉強する機会を設け、早期の栽培技術の向上を支援していきます。

### 高品質酒米生産のための現地検討会の開催



「吟の夢」の生育状況を確認する部会員

8月24日、JA土佐れいほく酒米部会が本山町古田集落で現地検討会を開催しました。当日は部会員12人に加えて、土佐酒振興プラットフォーム酒米部会の現地巡回を兼ねた会となったため、酒造組合や他産地の生産者等あわせて37人の参加がありました。

普及所からは、現在までの酒米4品種の生育状況と「吟の夢」の収穫までの水管理や病害虫対策等の注意事項について説明しました。参加した生産者からは「収穫適期の目安など、今後の管理ポイントが分かった」との声が聞かれました。

普及所は今後もJAと協力し、巡回による収穫適期指導を行うなど高品質の酒米生産を支援していきます。

### JA花卉部会現地検討会を開催



現地検討会の様子

8月26日と9月16日、JA土佐れいほく花卉部会の現地検討会が部会員4人の他、取引市場担当者を交えて土佐町で開催されました。会では、夏秋期の主力品目となるトルコギキョウやオリエンタル系ユリの栽培ほ場を巡回し、切り花品質や出荷時期等について意見交換しました。

普及所からは、嶺北地域のオリジナル品種である‘ノーブル’の「葉枯れ病」防除対策の実証結果や球根養成ほ場での病害対策について説明しました。

生産者からは「今回の葉枯れ病防除対策は一定の効果が見られたが、作型を変えて実証が出来ないか」「夏期高温の影響で収穫時期が予定より早くなりそうだ」などの声があり、活発に意見交換が行われました。

嶺北地域の花き生産は（一部品目を除く）、12月頃まで出荷量が多いため、継続して栽培技術支援をしていきます。

## 集落営農研修会（集落営農塾）を開催しました



ライスセンター視察

8月31日、土佐町が集落営農研修会（集落営農塾）を開催し、土佐町内の農家、農業委員、関係機関等32人の参加がありました。普及所は集落営農推進のために研修会の企画や運営について支援しました。

今回は本山町の吉延営農組合の取組事例について現地研修を行いました。参加者の中には、組合の具体的な活動内容について知らない人もいましたが、「取組内容が大変参考になった」「団結力がすごい」「今後も集落営農について知識を深めたい」等の声が聞かれました。

今後も普及所では関係機関と連携し、集落営農組織の活動支援及び集落営農の推進を行っていきます。

## 安心・安全のために～JA集出荷場環境点検～



出荷場で取組について確認

JA土佐れいほく園芸部は、ISO14001に基づく「れいほく版ISO」を実践しています。9月5日にJA・普及所と園芸部役員11人で、大豊町及び土佐町のJA集出荷場を巡回し、点検を行いました。

点検はチェックシートを使い、集出荷場の責任者から説明を受けながら、作業環境や衛生管理等について確認しました。

その結果、「作業場や休憩室のスペースが狭いのでは？」といった意見が出されました。また、去年の点検で指摘のあった作業場の照度について改善が図られていることも確認できました。

普及所では、JA園芸部が取り組んでいる環境保全型農業の活動を支援しています。

## 「新・農業人フェア」で就農相談（東京）



熱心に説明を聞く相談者

9月10日、東京都池袋で開催された「新・農業人フェア」に土佐町と普及所が参加し、就農相談を行いました。

相談者は6人で、棚田に魅了され田舎に移住し、水稲・ナス・ショウガなどを栽培したいと考えている人や動物が好きなので畜産を志す人など、就農ビジョンを持って相談に来られた人もいました。

相談者に対しては、嶺北地域のPRと併せて、特に土佐町での就農支援体制や具体的な研修内容などを中心に説明しました。

今後は今回面談した相談者に情報を提供し、就農希望者の確保につなげていきます。

## 直販野菜の生産拡大に向けて



J A 土佐れいほく 直販部会

9月12日に生産者40人が参加して、J A 土佐れいほく本所で直販部会の栽培研修が開催されました。

嶺北地域の直販品販売額は2億円を越えています。生産者の高齢化に伴い、直販店の魅力の一つである野菜の品揃えが課題となっています。

そこで、今回は「高齢者が分かりやすい内容にして欲しい」との声を受け、例年品不足になっている冬から春に出荷できる野菜について、写真やイラストを中心とした資料を使って研修しました。

参加者からは、「同様な資料を他の品目でも作って欲しい」との要望がありましたので、今後、主要品目のマニュアルづくりと生産者への提供に取り組んでいきます。

## 大豊町農産加工品を売り出すぜよ！！



6次産業化支援チーム会の様子

9月12日、大豊町農業センターで6次産業化支援チーム会を開催し、大豊地区農漁村女性グループ研究会6人とアドバイザーや県の関係職員など4人で、碁石茶せんべいの量販店への販路拡大に向けて話し合いました。

今回のチーム会では、香美市の量販店と商談していくことを決定し、アドバイザーからの「他の加工品や農産物も一緒に売り出したら良い」という助言で、碁石茶ようかん、みそ、焼肉のタレなども販売することになりました。

普及所は、今回の商談が成立するようサポートしていきます。

## 食品表示法と衛生管理などについて研修会を開催！！



真剣に話を聴く参加者

9月16日、普及所主催による「農産物・加工品の食品表示研修会」を本山町プラチナセンターで行い、管内の直販所等への出品者や加工グループなど44人が参加しました。

会では、県の担当職員が、平成27年4月に施行された食品表示や衛生管理について講習しました。普及所からは6次産業化の推進にかかる県の取組や支援などについて情報提供しました。

参加者からは、「消費者に対し、商品情報を正しく表記する責任を実感した」「グループのメンバーに伝え、これを機会に新しい食品表示法に基づく表示ラベルに変更したい」など、積極的な意見が出されました。

普及所は、今後も個別での相談や研修会などを通して、食品の適正な表示や衛生管理ができるよう支援していきます。